17. 田原の五輪塔

田原の五輪塔は、田原熊野座神社に近い北側の畑地縁辺に存在する（第 205 図）。この五輪塔の地輪には「田原寺」との銘が刻まれており、周辺の周知の埋蔵文化財包蔵地「田原城跡・田原寺跡」の名の由来となっている。なお、「田原城跡」は、主に周辺の小名から存在が推定されたものである。本塔には数多くの弾痕が認められ、このことから測量調査を実施した。

田原の五輪塔

a．田原寺・五輪塔の概要

本塔は建治 3 年（1277）造で、市内の紀年銘のある五輪塔としては建治元年（1275）銘の服部の五輪塔に次いで 2 番目に古い。また、残存状態が良好で各輪がオリジナルで揃っており、さらには高さ 171 ㎝の大形塔である。西南戦争関連資料としてだけではなく中世石造物としての価値も高く、そのため、本市の市指定文化財（建造物）となっている。

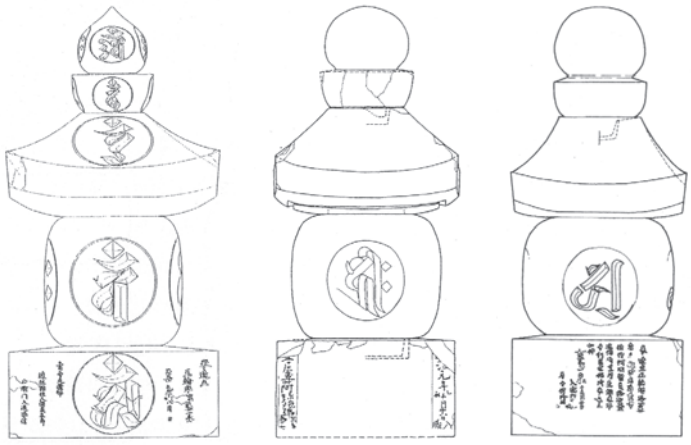
(1)「田原寺」銘について

造立経緯について、地輪銘をもとに記す。罫線状の割付線を引いて記銘が刻まれており、これには田原寺の院主臍慶ヵが極楽往生を願って建治 3 年に造立したとある（その丁度 600 年後の 1877 年に西南戦争が起こったことは何かの縁であろうか）。記銘に「往生」を願い、また水輪の 4 面全てに大きくキリークが刻まれていることから、浄土思想を強く意識したものといえる。この「田原寺」は現存せず、実態は不明であるが、『肥後国誌』（後藤 1916）の「田原村」の項に「弥陀堂」（表題のみ，説明文無し）との記載があることから、江戸時代後期においては、恐らくは衰退しながらも小さな堂として残っていたものと推察される。この衰退については不明と言わざるを得ないが、あえて言うならば戦国後期～江戸時代初期において寺院と密接に関わっていた在地領主などの有力者層が没落した、あるいは在地から遊離したといった理由が考えられる。

田原寺
院主臍慶ヵ
右志者為往生
極楽頓證菩提
造立如件
建治三歳次□□□月廿六日

(2) 五輪塔の型式（第 203 図・第 204 図）

本塔の地域性を示すのは、火輪と水輪の形状である。火輪は軒裏面が反り上がり、水輪は球形ではなく棗形を呈する。隣接する玉名郡玉東町の正嘉元年（1257）銘の西安寺 2 号五輪塔に比べれば、火輪の軒裏の反り上がりが弱く、水輪は上下に潰れた形状を呈しており、本塔に近く本市植木町にある建治元年（1275）銘の服部の五輪塔とは、ほぼ同じ形状である。一方、同町にある元享 2 年（1322）銘の舟底五輪塔（厳島神社塔）は、火輪の軒裏の反りが本塔よりも明らかに弱い。以上、本塔は地域性・時期性とも当該地域の型式を良く示すものと



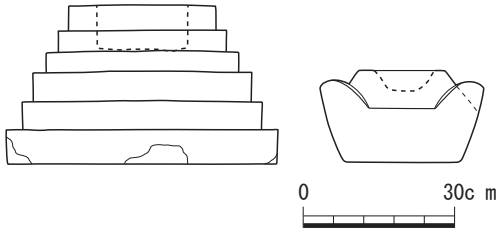
西安寺 2 号五輪塔 1257 年　服部の五輪塔 1275 年　舟底五輪塔 1322 年

肥後の五輪塔型式 参考図（縮尺任意）

※参考文献（狭川 2012 より）転載

いえる（狭川 2012）。水輪のキリークが大きく深く、明瞭な薬研彫りで刻まれていることも鎌倉期の特徴を示している。石材は熊本県内の中世石造物に汎用される阿蘇溶結凝灰岩である。粗い石材の肌理を潰すためであろう、表面を研磨している。

なお、本塔の脇には天正 13 年(1585)銘の自然石板碑の他、石塔の部材が寄せられている。このなかでは、主に県北部に分布し、菊池氏との関連が強いとされる菊鹿型宝篋印塔（高橋 2024）の 6 段基礎、肥前地方からの搬入とみられる軒端が角状に突出する小形五輪塔の火輪、その系譜により成立した有角五輪塔(野村・美濃口 2019）の空風輪などが注目される。菊鹿型宝篋印塔は 14 世紀後半の型式で、山本郡（現植木町とほぼ同範囲）最大の荘園である山本荘を、概ね 15 世紀代までは菊池氏が荘官職として支配していたこと（中村 1981）など、当該地が菊池氏の勢力下にあったことを反映すると考えられる。後二者は、肥前地方の強い影響によるものとみられる。小形五輪塔火輪は 16 世紀末に位置付けられ、肥前地方に特徴的な軒端の形状であることのみならず、肥後においてはこの時期に使用されない硬質・多孔質の安山岩製であることからも搬入品と判断される。管見では県内初例であり、時期性を鑑みれば、天正 9 年（1581）に龍造寺氏が肥後北部に勢力を伸張し、山本郡もその支配下に入ったとみられること（中村 1981）との関連を指摘し得る。有角五輪塔は、県内では慶長 5 年(1600)例を最古とし 17 世紀代に隆盛する。本例は 17 世紀初頭の型式で、この時期には上級武士層の墓石として使用されている。当該地周辺（鹿本郡）では初例である。なお、北東約 180 mの道沿いには、やや大形で樽形に近い形状の五輪塔水輪（高さ 38 ㎝）もある。14 世紀代に位置付けられる。「三界萬霊」の銘があるが、恐らくは追刻であろう。



第 203 図　菊鹿型宝篋印塔・肥前の五輪塔実測図

菊鹿型宝篋印塔基礎

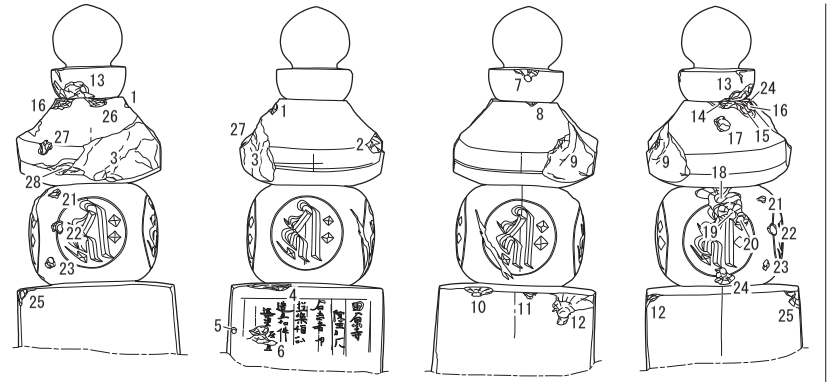
肥前の五輪塔火輪

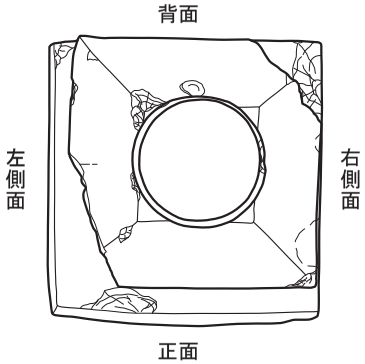
有角五輪塔空風輪

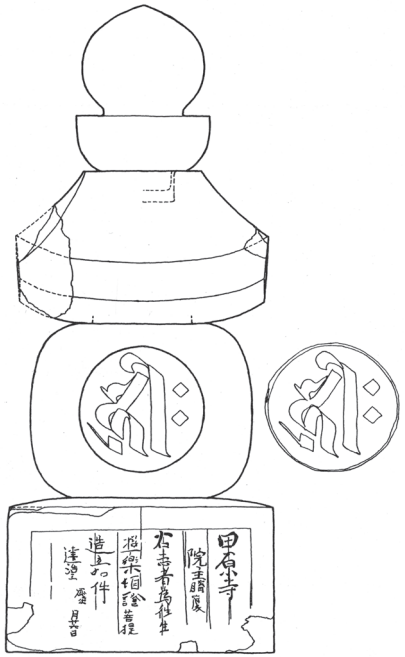
b．五輪塔の弾痕（第 204 図・第 205 図）

本五輪塔には多くの弾痕が認められ、西南戦争時、付近の豊岡台地北東部における戦闘によるものと考えられる。弾痕の認定は第Ⅳ章 -1 に記した同定基準による。28 カ所の弾痕を確認しており、内訳は風輪 2 カ所、火輪 12 カ所、水輪 7 カ所、地輪 7 カ所である。激しい戦闘があったとはいえ、例えば、かつて同台地上の激戦地にあった土蔵「弾痕の家」の古写真と比べても弾痕の密度は高く、あるいは本五輪塔を楯にした兵士（政薩どちらかは不明ながら）を狙ったためともみられる。弾痕の多くは打点（当たった箇所）の窪みや衝撃による爆ぜの大きさから、小銃弾のものと考えられるが、火輪の大きく欠けた 2 カ所（№3・9）については砲弾痕の可能性がある。

なお、弾痕の位置から具体的な戦闘状況を想定するのは難しい。地元からの聞き取りによれば、畑地の南東隅にある現在地は移動したもので、以前は同畑地の中央付近にあり、これが恐らくは西南戦争時の位置であったろうという。これを現在地に移設した際に、塔の方向や各輪の組み合わせの向きが変わってし

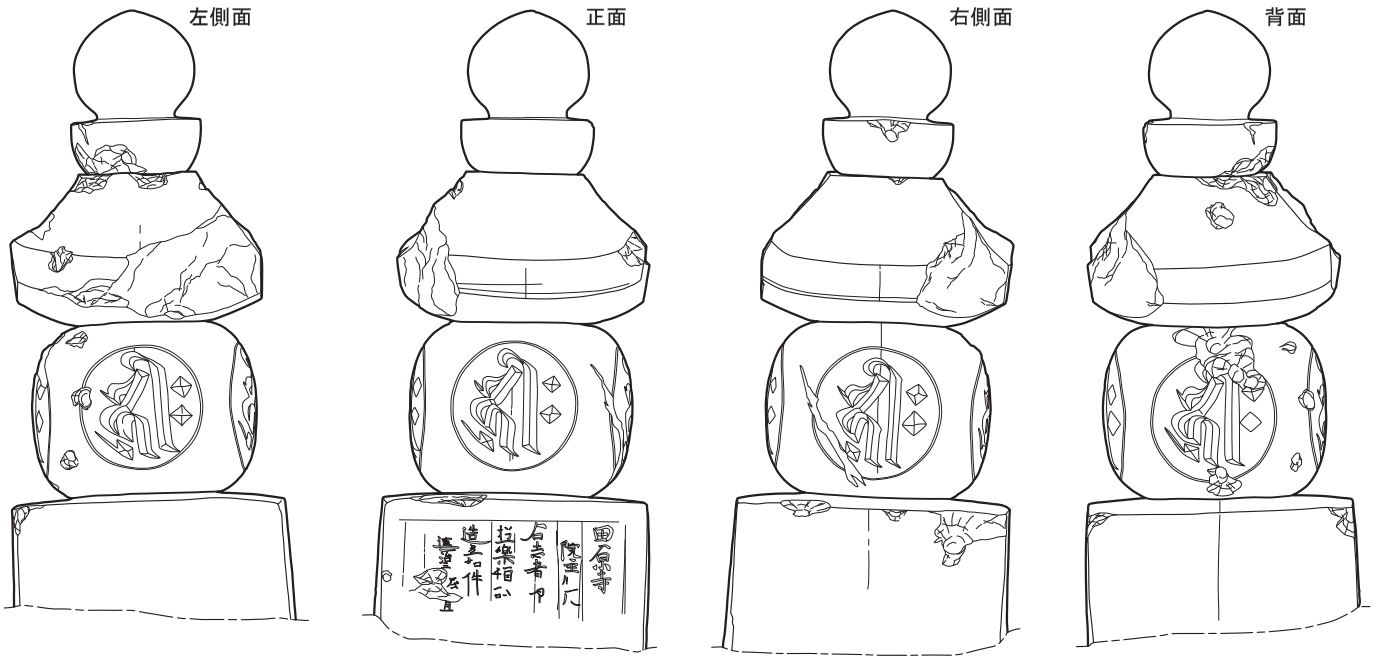






石塔実測図

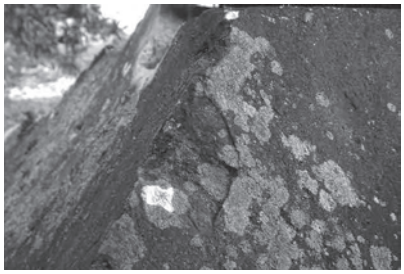
※文献（佐藤 1989 より）転載

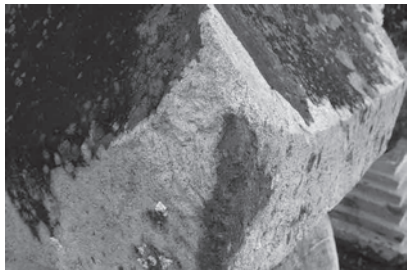


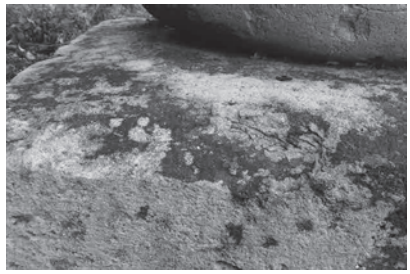
弾痕実測図

0　50cm

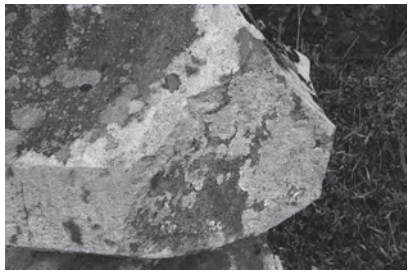
第 204 図　田原の五輪塔実測図（1／20）

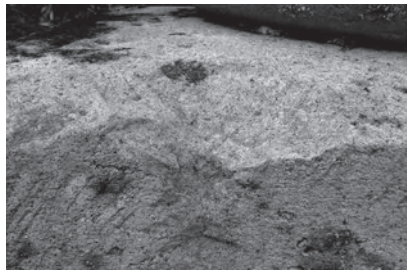

1

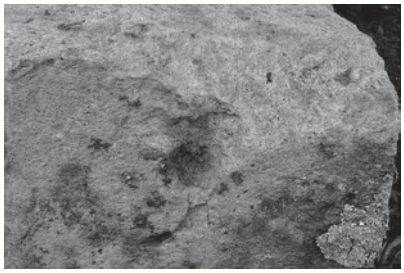

2


4

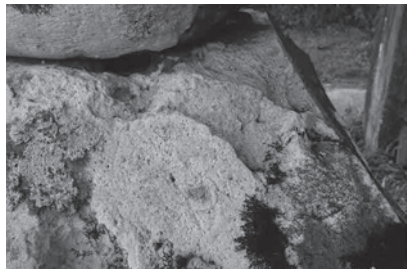
6

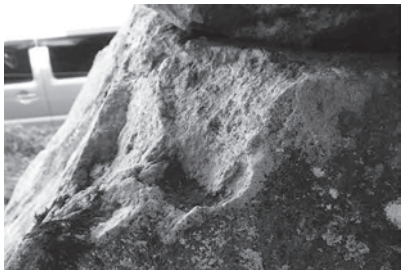

9


10

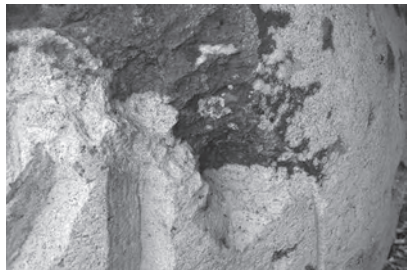

12

13

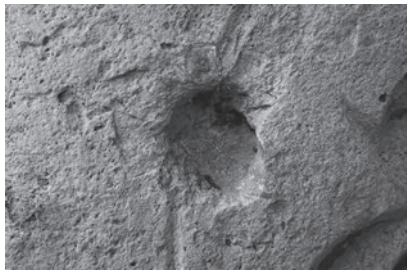

14・15

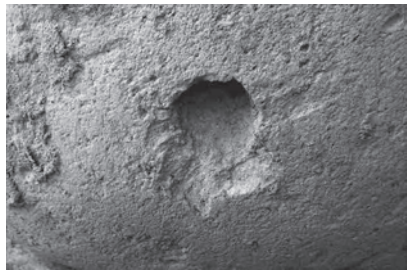

16

18


19・20

21


22


23

24

25

26

田原の五輪塔弾痕写真

※番号は第 204 図に対応

第 205 図　田原の五輪塔位置図（1／5,000・1／600）

まった可能性があり、そのため、各弾痕が戦闘時にどの方向から撃たれたものかは不明と言わざるを得ない。

参考として、西南戦争の弾痕を踏査した結果を次頁表に示した。これまでの弾痕調査は、実物や古写真から個別にその存在を紹介するに止まっていた。本表は、激戦地にあって既往調査により既に弾痕と報告されているものの他、地元からの聞き取りなどをもとに、当時からあったとみられる木造建物・樹木・石造物・露頭などを対象に踏査して弾痕（場合によっては突き刺さった銃砲弾そのもの）を探し当て、事例を集成したものである。弾痕は、確かにこの地で西南戦争の戦闘があったことを明確に示す物証である。なかには、文献記録などの援用によってその地における具体的な戦況復元が可能なものもあり、その価値・有効性は高いといえる。

〔参考文献〕

後藤是山編 1916「増補校訂肥後國誌 巻之四下 山本郡 肥後藩士 森本一瑞遺纂 肥後翁巻 水島貫之校補」『肥後國誌』九州日日新聞社印刷部

狭川真一 2012「九州〈五輪塔〉」『中世石塔の考古学 五輪塔・宝篋印塔の形式・編年と分布』高志書院

佐藤 誠編 1989『九州の石塔調査資料集 1 ～ 150 附九州外石塔 1 ～ 10』芸文堂

中村一紀 1981「第二章 中世」『植木町史』植木町

高橋 学「石造物からみた菊池一族について－菊池市亘輪足山松林院東福寺を中心として－」『菊池一族解體新章 巻ノ三』菊池市教育委員会 菊池文化研究所

野村俊之・美濃口雅朗 2019「有角五輪塔考－近世九州における異型五輪塔の発生と展開－」『論集 葬送・墓・石塔』佐川真一さん還暦記念会

参考　西南戦争の弾痕踏査一覧表

※県名の無いものは熊本県。特に記述の無いものは小銃弾痕。下線は小銃弾の実物が残る、あるいは残る箇所があるもの。石造物は特に記述の無いものは凝灰岩製。

藤崎台のクスノキ群	熊本市宮内	樹木(エンフィールド銃弾)	熊本城総攻撃　2月22・23日
正念寺	玉東町木葉	山門，石階段，石積，樹木(金属反応)	木葉の戦い　2月23日・3月3日
疋野神社	玉名市立願寺	社殿(抜き出した小銃弾あり)，棟札	高瀬の戦い　2月25～27日
読坂阿弥陀堂跡	玉名市繁根木	鋳造阿弥陀如来像，石造仁王像(肥前安山岩－塩田石製)	
寺田菅原神社	玉名市寺田	社殿	
八重垣神社	玉名市永徳寺	庚申碑，石祠(櫻井又吉翁頌徳碑)	
玉名大神宮	玉名市玉名	石垣	
繁根木稲荷神社	玉名市繁根木	石灯籠	
墓地	玉名市繁根木	墓石	
高瀬裏川水際緑地公園	玉名市高瀬	水路石垣	
岩崎の民家跡	玉名市高瀬	板戸　※玉名市歴史博物館蔵	
願行寺	玉名市高瀬	石垣	
墓地	玉名市高瀬	墓石	
梅林天満宮	玉名市津留	石灯籠	
河崎天満宮	玉名市河崎	石灯籠	
官軍本営出張所跡	玉東町二俣	石積み	田原坂の戦い　3月4～20日
田原坂公園北半部	熊本市植木町豊岡	土にめり込んだ砲弾片出土，大クス(金属反応)	
田原熊野座神社	熊本市植木町豊岡	社殿(戦後再建)，樹木(小銃弾・砲弾片)，石鳥居，石灯籠，石祠	
田原の五輪塔	熊本市植木町豊岡	凝灰岩製五輪塔(大きな欠けは砲弾痕の可能性)	
墓地	熊本市植木町豊岡	墓石	
平原の民家跡	熊本市植木町平原	縁側の柱	
上白木の民家跡	玉東町上白木	座敷の柱(砲弾痕)	
白山宮	玉東町西安寺	石灯籠	
仁連塔神社	熊本市植木町広住	社殿	木留・植木方面の戦い　3月20日～4月15日
薩軍本営跡付近	熊本市植木町木留	石祠	
辺田野熊野座神社	熊本市植木町辺田野	社殿	
荻迫神社	熊本市植木町荻迫	社殿	
そめや旅館跡	熊本市植木町植木	天井板　※そめや旅館は旧豊前街道沿いにあった	
荻迫観音	熊本市植木町荻迫	石祠「相撲の神さん」	
墓地	熊本市植木町滴水	墓石(大きな欠けは砲弾痕の可能性)	
田原坂西南戦争資料館	熊本市植木町周辺	弾薬箱，樹木片(小銃弾・砲弾片)，板材　※田原坂西南戦争資料館蔵	詳細地不明　2月下旬～4月中旬
オブサン古墳	山鹿市城	閉塞石，石室袖石(大きな欠けは砲弾痕の可能性)	山鹿口の戦い　2月26日～3月21日
墓地	山鹿市鍋田	墓石(大きな欠けは砲弾痕の可能性)，中世板碑	
石藤崎八幡宮	山鹿市石	参道石橋，楼門	
正泉寺	山鹿市椿井	石積，本堂の柱	
鍋田村江戸時代民家	山鹿市鍋田	柱　※山鹿市立博物館近くに移築	
正円寺	山鹿市津留	本堂垂木　※修理済	
野々島矢具神社	合志市野々島	本殿，石灯籠	野々島・南田島方面の戦い　3月21日～4月15日
光徳寺	菊池市泗水町南田島	本堂天井(天井を突き破った四斤砲弾の現物あり)　※修理済	
光永寺	熊本市池田	山門，本堂柱，石製経塔(軟質の金峰山系安山岩－島崎石)	京町口出撃戦(熊本城籠城)　3月27日
新屋敷の民家跡	熊本市新屋敷	床間框材(スナイドル銃弾)	突囲隊の戦い(熊本城籠城)　4月8日
春光寺	八代市古麓町	板戸，位牌，松井家墓所顕彰碑(砂岩製)	八代方面の戦い　4月6～17日
妙見宮のクスノキ	八代市妙見町	伝承(金属探査はしていない)	
健軍神社杉馬場	熊本市健軍	樹木(スナイドル銃弾)	城東会戦　4月17～21日
大願寺	大津町室	山門(柱の大きな欠けは砲弾痕の可能性)	
人吉城跡	人吉市麓町	長塀跡沿い樹木(金属反応あり)，同所で小銃弾出土という	人吉の戦い　5月7日～6月1日
青井阿蘇神社	人吉市上青井町	石灯籠，拝殿礎石	
老神神社	人吉市老神町	境内天満宮社殿，灯籠	
観音禅寺	人吉市願成寺町	石灯籠(同市内から移設)	
茶屋ノ辻一帯	大分県竹田市竹田	切通し露頭，墓石(大きな欠けは砲弾痕の可能性)，樹木(金属反応あり)	竹田の戦い　5月20～29日
中川神社	大分県竹田市拝田原	社殿，石灯籠棹・石灯籠笠(水盤に転用)	
大楠台場近く	宮崎県日之影町岩井川	自然礫(頁岩)　※道路脇に移設	大楠方面の戦い　6月25日～7月2日
坊主岩	宮崎県西米良村竹原	天包山中の大形自然礫(花崗斑岩)	天包山の戦い　7月22・23日
鹿児島城跡	鹿児島県鹿児島市城山町	大手虎口石垣(石垣排水溝から砲弾片も出土，太平洋戦争の弾痕混在)	城山の戦い　9月1～24日
私学校跡	鹿児島県鹿児島市城山町	石塀(大きな欠けは砲弾痕の可能性)	